

Local Government Casino News : Tokushima Pref.

徳島

第二回日本カジノ創設サミット・熱海大会」レポート

文：日本カジノ健康保養学会 天野靖久



平成16年9月24日、第二回日本カジノ創設サミットが熱海・カジノ誘致協議会の主催により熱海市観光会館で開催された。観光振興や地域活性化を目的にカジノ実現を目指す全国の誘致団体である秋田、珠洲(石川)、常滑(愛知)、堺(大阪)、沖縄の各代表の中に、徳島を代表して日本カジノ健康保養学会も参加した。その他、カジノ関連の国会議員や学識者、民間関係者など約600人が出席、日本のカジノを取り巻く状況と構想を話し合った。

来賓として出席した自民党「国際観光産業としてカジノを考える議員連盟」の野田聖子会長は、「この秋のうちに超党派に広げ、来年の通常国会で法案を提出したい」と、カジノ導入に向けて政局をにらんだ動きを述べ、続いてカジノ関連岩屋毅事務局長が、自民党がまとめたゲーミング(カジノ)法基本構想概要を説明した。

基調講演では谷岡一郎・大阪商業大学学長が「カジノの成功哲学は徹底してお客様を喜ばせること。一番大切なのはクリーンで公平、そして決して悪を入り込ませないこと」とラスベガスカジノの例を挙げて語った。

そしてパネルディスカッション第一部では、秋田・珠洲・常滑・堺の各代表がリゾート法時代の様な開発計画を图示するなどカジノ誘致を熱っぽく提示し、沖縄は、糸満市にカジノ・オーストリア・インターナショナルの後援を受け具体的な計画が進んでいる事を述べた。その中

で、日本カジノ健康保養学会は、地方におけるカジノの様式として「カジノ健康保養システム」を次のように解説した。

「日本は高齢化と少子化・負担の増大及び不安定な社会を迎え、この対策として「カジノ健康保養システム」は考えられたものであり、イギリスの社会精神医学「治療共同社会」とドイツの温泉保養医学「クアオルト」という二つの概念を日本的なアレンジで取り入れた街造りと健康増進社会造りであり、根底には芸術・美術・哲学の思想が流れている。そしてこのシステムの財源的下支えにカジノからの収益を活用していく。ドイツのバーデン・バーデンをモデルに考え、このシステムがもたらすものとして、1)介護老人比率の低下、健康老人比率の向上、2)生活習慣病の減少、保険費の低下、3)青少年の心身の健康度向上、4)街の活性化と芸術化、5)生きがいの発見があげられる。一言で言うと「ウェルネス社会の出現」を目指すものである」

「ウェルネス」とは阿岸祐幸 北海道大学名誉教授によると「医学的な原則に立ちながら、代替・相補療法を行う。一次予防・二次予防を重視する積極的健康づくり。アンチエイジング、介護予防、自由診療、自己負担」であるという。全員の発表の後、カジノ誘連・岩屋毅事務局長は「カジノ誘連では、日本版カジノは決まったスタイルを想定しておらず、みんながラスベ

ガス型ばかりを志向するのではなく、それぞれの地域の地理的条件、歴史・伝統・文化、そういうものの中から地域の特性にあったものを考えていただきたい。そしてそれが認められる法体系をつくらなければいけないと思っています。まだ具体的構想はありませんが、私の地元の大分・別府は熱海と姉妹都市です。まさに徳島の中西先生のカジノ健康保養システムに近い温泉保養文化と組み合わせたい形の「癒しのカジノ」といったイメージで構想するのがベストであると思います」とカジノ健康保養システムに賛意を示した。

また、第二部パネルディスカッションでは、美原融三井物産戦略研究所室長、川口市雄熱海市長、森田金清熱海・カジノ誘致協議会会長、宮本勝浩大阪府立大学経済学部長により、熱海のカジノ構想をもとに健全なカジノで期待される経済効果、雇用創出効果について話し合われた。

この後、熱海市のホテルで催された模擬カジノでは、来賓や市民300人余りがルーレットやスロットマシンを楽しんだ。その中でゲストのはかま満緒氏は「都知事にカジノを進言したのは僕、来年の数箇所のカジノ認可を信じている」とエールを送っていた。



日本カジノ健康保養学会
会長
中西昭